

令和3年度第5回（第55回） 浜田市行財政改革推進委員会 会議録

日時 令和4年3月22日（火）  
13時30分～14時45分  
場所 浜田市役所西分庁舎1階  
浜田まちづくりセンター研修室

[進行／行財政改革推進課長、会長]

◆ 開会（13時30分）	
行財政改革推進課長	<p>ご案内しておりました時刻になりましたので、只今から令和3年度第5回浜田市行財政改革推進委員会を開会します。</p> <p>委員の皆様には、本日お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>私は事務局を務めます、行財政改革推進課の湯浅です。</p> <p>はじめに、この会議は、公開で行いますのでご承知おき願います。</p> <p>開会に当たり、光延会長からご挨拶をお願いします。</p>
1 あいさつ	
光延会長	<p>皆さまこんにちは。年度末でご多用の中、多くの委員をはじめ、市の幹部の方たちにもお集まりいただきましてありがとうございます。今日は議題が2つございまして、皆さまの忌憚のないご意見をいただき進めてまいりたいと思います。桜のころとなり、おそらく今週の終わり頃には桜が見えるのではないかと思います。季節の変わり目で、コロナウイルス感染者も増えております。今日は多人数ということで手際よく進めたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。</p>
行財政改革推進課長	<p>続きまして、本日の資料を確認させていただきます。</p> <p>本日お手元に、レジュメ、出席者名簿をお配りしています。また、先般、事前送付しました資料1、資料2及び資料2別冊を持参いただけましたでしょうか。資料があるかご確認ください。資料がない場合においては、お持ちいたしますので、申出いただきますようお願いします。</p> <p>次に、本日の欠席者をお知らせします。</p> <p>レジュメの裏面、2ページの「浜田市行財政改革推進委員会 委員名簿」をご覧ください。番号7番の浜口（ハマグチ）委員、番号10番の高橋（タカハシ）委員、番号15番の石川（イシカワ）委員、番号17番の介見（カイミ）委員が所用のため欠席されています。</p> <p>次に、市職員につきましては、3ページに「浜田市行財政改革推進本部幹事名簿」を掲載しています。本日は教育長が欠席です。また、産業経済部長の代理で商工労働課長、議会事務局長の代理で議会事務局次長、総務課長の代理で総務課副参事が出席しています。</p>
行財政改革推	<p>それではここで、前回の会議の内容と本日の協議内容を確認いただきます。</p>

進課長	<p>今回は、令和3年12月17日（金）にお集まりいただき、「第1期公共施設再配置実施計画 別冊（令和3年度版）（案）」及び「行財政改革に係る申入れについて」の2点を議題とさせていただきます。「第1期公共施設再配置実施計画 別冊（令和3年度版）（案）」については、推進委員会等でいただいたご意見、ご指摘をもとに、1月に最終決定し、確定版を委員の皆さまへ送付させていただきます。</p> <p>本日は、令和4年度からを計画期間とする新たな「浜田市行財政改革実施計画（案）」及び「浜田市第2期公共施設再配置実施計画（案）」についてご審議いただく予定としております。</p> <p>会議時間は、1時間30分程度を予定しておりますので、よろしく申し上げます。それでは、以降の議事進行は、光延会長にお願いいたします。</p>
<b>2 議題 (1) 浜田市行財政改革実施計画（案）について</b>	
光延会長	<p>それでは、協議事項(1)に移ります。</p> <p>「浜田市行財政改革実施計画（案）」について、事務局から説明をお願いします。</p>
行革推進係長	(資料1について説明)
光延会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、委員の皆さまからご意見、ご質問をいただきたいと思っておりますので発言される方は挙手をお願いします。</p>
浅浦委員	<p>16ページに「組織機構の見直し」ということで挙げられています。大切なことだと思いますが、支所体制も含めた抜本的な組織改正を検討していくとあります。具体的にどうしていくのか少し気になりまして、というのが、現在支所は旧那賀郡に4つありますが、急な統合、廃止となると市民サービスの低下や定住対策へ影響が出るのではないのでしょうか。</p>
行財政改革推進課長	<p>支所体制や定住対策についてご質問をいただきました。浜田市では平成31年4月に組織の大規模改編を行いスリム化を図ったところですが、新たな行政需要への対応等により、組織機構は拡大傾向にある状況です。平成31年4月以降ですが、財務部の廃止、令和2年4月には定住関係人口推進課の新設、令和3年4月におきましては社会教育を市長部局へ移管といった機構改革を行っております。お話のありました支所につきましては、廃止ということは検討していない状況です。目指す方向性としましては、定年引上げといった法改正や事務事業量の多寡を踏まえた見直しということを考えております。令和3年度から協働のまちづくりといった新たな行政運営の仕組みが導入されたこと等も踏まえて、支所体制を含めた検討も必要だろうと考えています。</p>
副市長	<p>組織機構の見直しについては、平成29年に事務事業量調査というものを行っております。当時、各課でどのくらいの仕事量があるのか専門機関に委託して調査したものです。この調査を基に、定員適正化計画を作成し、併せて、専門機関から組織機構の統合等について提案をいただいております。この提案をベースにこれまで機構の見直しを行っております。この度、デジタル推進室やカーボン</p>

	<p>ニュートラル等、当時無かったことを行っておりますが、基本的に専門機関に委託した事務事業量調査の結果を基に考えております。その中で、支所については、現在3課のところ将来的に2課にしてはどうですか、といった提案をいただいているところですが、支所の統廃合といったことは全く出ておりません。当時の事務事業量調査をベースに本庁、支所の組織機構を見直しているということでご理解いただければと思います。</p>
浅浦委員	<p>例えば窓口サービスや防災に関することなど、住民に大きく関わることは残し、最終的に産業や教育などは本庁に持ってくる可能性もあるということで、今のところ廃止は無いということで理解しました。</p>
佐々木委員	<p>4点ほどお聞きします。</p> <p>24 ページに「公立幼稚園の統合」があり、令和5年4月から長浜幼稚園の園舎を使用されるということです。やはり子供が幼稚園で色々なことを学んで成長していくことが大切だと思いますので、今までの幼稚園で良かったことは続けて、やめた方がよいことはやめていただきたいと思います。教育に関しては維持管理費などの財源ばかり気にしてはいただけないと思いますが、幼稚園と子どもたちの信頼関係が築けるよう、にぎやかで魅力ある幼稚園にしていきたいと思います。</p> <p>2点目ですが、32 ページの「広島プロジェクト推進事業費の見直し」についてです。取組に記載のあるとおり、効率的な需用費の使い方をしていただきたいと思います。また、事務局が現在どこにあるのか分かりませんが、どのくらいPRできているのか考えられた方がよいかと思います。</p> <p>次に33 ページの「(国保) ジェネリック医薬品の普及」についてです。ジェネリック医薬品の普及は良いことだと思いますが、もう少しジェネリック医薬品についてPRをしてほしいと思います。</p> <p>4点目ですが、37 ページの「ふるさと寄附の推進」についてです。ふるさと寄附のパンフレットを見ましたが、季節的なものもあると思いますので、パンフレットやインターネットを新しくされたときは、早めにお知らせしてほしいと思います。また、3月11日金曜日の山陰中央新報にふるさと納税の残念な対応について載っていました。ふるさと寄附が1回限りで終わるのではなく、リピートしていただくためには、返礼品も大切だと思いますが、対応の仕方でお客様の気分を害することもありますので、そういったことが無いようにこれからも取り組んでいただきたいと思います。</p>
健康福祉部長	<p>公立幼稚園の統合につきましては、保護者の方にも令和3年度からお話をさせていただいております。どのような統合が一番良いかということで検討会も何度か開催しております。委員が言われたとおり、今までの幼稚園の良いところをできる限り新しい幼稚園でも続けていくということで、話し合いを進めているところです。</p> <p>また、ジェネリック医薬品の普及につきましては、担当課から継続して通知を出しているところですが、ジェネリックについて分からない方もおられます。</p>

	<p>保険証を送る際に、ジェネリック医薬品に切り替えることによって負担が減りますといった通知も出して取組を進めているところです。</p>
商工労働課長	<p>広島事務所についてですが、現在、原爆ドームの前あたりにあります広島商工会議所ビルに事務所が入っております。本庁産業振興課等とも連携しながら、PRに努めていきたいと考えております。</p> <p>また、ふるさと寄附につきましても、委員ご指摘いただいたとおり、より良い対応ができるように、職員、事業者一緒になって、引き続き取り組んでいきたいと思っております。</p>
宮本委員	<p>9ページの「まちづくりセンターの検証」ですが、令和3年度からまちづくりセンターに移行し、これを踏まえて令和4、5年度に検証するということが良いのでしょうか。また、こういった検証を行うのか具体的なものがあるのでしょうか。</p>
地域政策部長	<p>まちづくりセンターの検証につきましては、資料では令和4、5年度の2か年の記載となっておりますが、令和3年度からの3か年で検証を行っていく予定としております。具体的な検証の内容ですが、まちづくりセンターの適正配置ということで、現在各地区にまちづくりセンターを配置しておりますが、人口規模や面積、利用状況等踏まえて検証を行っていく必要があると思っております。また、運営方針ということで、令和3年度に直営で運営する方針でスタートしておりますが、これが望ましい形であるのかということも3年間かけて検証していきたいと考えております。職員体制につきましても、現在、基本的にセンター長1名、主事3名ということで、地域との関わりを持って運営をしておりますが、人員配置についても適切かどうか検証を行ってきたいと考えております。</p>
上野委員	<p>15ページの「時間外勤務の抑制」についてお伺いします。時間外勤務の抑制については苦慮していることと思っておりますが、抑制に向けて仕組みを抜本的に変えられるお考えがあるのか質問させていただきます。全国の自治体におけるフレックスタイム制の導入状況は分かりませんが、制限等もあり導入できないということがあるのかもしれませんが、導入する民間企業が増えてきているのも事実でございます。フレックスタイム制を導入するメリットとしては大きく3点ありまして、1点目が職員の疲労軽減や生産性の向上が図れること。それから、残業や休日出勤などの時間外勤務の削減が図れること。3点目に優秀な人材を確保できることといったことです。その中で、特に時間外勤務の抑制においては、有効的な手段であるといわれております。これまでどおりのやり方では時間外勤務の抑制が難しいという中で、仕組みを変えられるお考えがあるのかお伺いさせていただきます。</p>
人事課長	<p>フレックスタイムについては、浜田市においては制度としてはございますが、勤務体系が少し特殊であります医師のみ適用があるという状況です。抜本的な時間外勤務の抑制にフレックスタイムということですが、行政においては、窓口が代表的な例ですが、組織として決まった時間で業務を行い、成果のみを見</p>

	<p>て評価するということになりにくいので、現在のところ職員の人事管理といったことも含めまして、一般職全体に適用ということは難しいのではないかと考えております。しかしながら、フレックスタイムはこれからの課題であると考えておりますので、引き続き情報収集を行っていきたいと考えております。</p>
上野委員	<p>全国で導入されている事例はあるのでしょうか。</p>
人事課長	<p>制度としては国のものがありますので、どこまで運用しているのかといったことはありますが、事例はあるかと思えます。</p>
細川委員	<p>9ページの「協働のまちづくりの推進」について、組織率がありますが、分母と分子を教えてください。</p>
地域政策部長	<p>組織率は町内の数で割合を出しております。分母は浜田市全体の町内数である603で、分子については地区まちづくり推進委員会が設立されている町内の数ということで485となり、80.4%です。</p>
三浦委員	<p>24ページの「学校給食施設の統合」についてお伺いします。センター方式に一本化するという方向性は決まりましたが、地元との話し合いが中々まとまらず現在に至っているのではないかと考えています。地元では、自校方式のままが良いという意見も多く、センター方式移行への抵抗はかなりあると思います。小さな田舎の学校は自校方式のままでも良いのではないかと考えていまして、地域や町内が基金を出し合っても自校方式を守っていくといった案が出たときには、そのような流れも認めるべきだと思っています。</p>
教育部長	<p>給食センターの一本化ということですが、現在は、災害時のリスク等も踏まえて浜田市全体で一か所という考えでは進んでおりません。今回三隅の3校をセンター化ということですが、老朽化が進んでいる学校もあり、また調理員の確保も厳しい中で、三隅とも協議をしたうえで、センター化しようということで話をまとめているところです。また、自校方式を望まれた場合についてありましたが、学校給食については安全管理が非常に厳しい中で、施設改修等非常に費用がかかりますので、地元でお金を出すということは中々難しいのではないかと考えます。栄養管理の面、食育の面を含めて、地元の食材を使ううえで、小規模だと単価が高いといったこともありますので、色々なことを考えてセンター化を検討しております。</p>
久保田委員	<p>副市長にお伺いしたいのですが、この行財政改革実施計画の目玉はどれでしょうか。</p>
副市長	<p>行財政改革の目玉ということですが、これらはあくまでも手段であり目的ではございません。これを行うことによって経費削減を図り、市民サービスへ充当するのが目標です。冒頭に協働のまちづくりの推進があります。この項目は行財政改革というよりも総合振興計画にあります協働のまちづくりを進めていくことですので、このあたりに力を入れられるように行財政改革実施計画を推進していくという考えでございます。昨年4月から自治区制度が協働のまちづくりに移行しまして、これにしっかり取り組むことで周辺部の地域の個性を生かした一体的なまちづくりを行うことができますので、必要な経費を少しでも</p>

	<p>捻出していくという思いで作っております。効果額で言いますと、これまででいぶん行革を行っておりますので、今回の効果額はこれまでよりも少ないですが、あくまでもより良い行政サービスを行う手段ということでご理解いただければと思います。</p>
久保田委員	<p>副市長が言われたとおり、行財政改革というと削ることばかりで、削ったものがどこに行ったのか中々市民には伝わりづらく、批判的になされることもあるかと思えます。市民サービス向上に生かされているということをもう少しPRできればこれからの行財政改革も進むのではないかと思います。</p> <p>もう一点、「浜田市教育文化振興事業団のあり方見直し」についてですが、長年改革を進めてこられて、特に管理費の削減である程度の効果は出されていると認識しております。ただ、施設のことを考えると管理費や人件費を削減すると職員の方のモチベーションも上がらないと思えます。例えば、文化ホールや美術館、プールについては稼げる施設ではないかと思っていますので、攻めの改革を行っていかれてはいかがかなと思えます。今までは管理費を削る流れであったかもしれませんが、お金をある程度つぎ込んで集客を増やし、施設の運営が成り立っていくような施策を考えていくべきではないかと思えます。そうすると、教育部の管轄で良いのか、例えば、産業経済部や地域政策部でこれからの改革を考えていくのも1つの案かなと思えます。</p>
教育部長	<p>まず事業団についてですが、基本的には事業団自らが整理すべきものであると思っています。中期経営計画を作成しておりますので、それに基づいて進捗管理をしている状況です。施設はあくまでも市のものですので、大規模改修等も検討しますが、それによって直接事業団の経営を圧迫することは無いと認識しております。ただ、人件費も含めた総合的な経費の削減ということは今後も検討すべきであると考えております。また、集客のことがありましたが、ここ数年コロナウイルスの影響もあり、自主事業等において非常に厳しい状況となっております。また、所管についてもありましたが、先般松江市では文化スポーツ部ということで市長部局に作っております。県内でも、文化財系については教育委員会が所管したままですが、芸術文化系については市長部局へ移管といったことがある程度進んでおります。今回、協働のまちづくりの中で、生涯学習として教育委員会が所管していたものを市長部局へ移管し、市民全体の中で使っていくという流れは確かにございます。ご意見いただきましたので、所管を受ける側とも協議をさせていただき、集客や経営改善といったことも含めてしっかり検討させていただきたいと思えます。</p>
中島委員	<p>7ページの下段「インフラ資産等の長寿化対策」についてですが、7項目全体として財政効果見込み額はこういった考え方で出されるのかお聞きしたいと思えます。</p>
行財政改革推進課長	<p>効果額見込みの出し方でございますが、現時点で具体的にどのように出していくのか検討しておりません。毎年の進捗管理の中で、個別に検討してまいりたいと考えております。</p>

2 議題 (2) 浜田市第2期公共施設再配置実施計画(案)について	
光延会長	<p>それでは、続きまして議題(2)に移ります。</p> <p>「浜田市第2期公共施設再配置実施計画(案)」について、説明をお願いします。</p>
行革推進係長	(資料2、資料2別冊について説明)
光延会長	<p>ただ今、説明がありました。</p> <p>それでは、委員の皆さんからご意見、ご質問をいただきたいと思いますので発言される方は挙手をお願いします。</p>
浅浦委員	<p>別冊の通番11 浜田城資料館についてですが、現在改修して利用されているかと思いますが、位置づけとしては歴史的建造物ということですか。ここにある御便殿というものは全国で2か所しかないようで、文化財としての指定を検討されないのでしょうか。また、今後の利用について、引き続き展示や市民の利用があるのでしたら、現在計画されている新しい資料館との兼ね合いもありますので、その辺りのお考えを伺いたい。</p> <p>また、関連して6ページの通番85 第一中学校の項目がありますが、登録有形文化財の21連隊の屋内施設ということで、こちらは外観を見ると痛みが激しく十分な管理がされていないような感じですか。一方、県所有の浜田高校体育館については耐震化の対応もされているかと思いますが、今後の方針について計画されているのかお聞きしたい。</p>
教育部長	<p>まず、浜田城資料館についてですが、ご存じの方も多いと思いますが、御便殿を浜田城資料館としています。浜田城関係と外ノ浦の関係が日本遺産になりましたので、そういったものに限定した展示、いわゆる案内施設という形でオープンしております。時期によっては、ひな祭り等の企画を行うこともありますが、基本的には目的を限定した資料館ということで運営しております。今後当面の間は、浜田城資料館としての利用は継続することとしています。また、修繕につきましては、現在文化財に指定しておらず、必要最小限の修繕を行っておりますが、文化財として指定すると修繕も含めて許可が必要になったりと、ある意味融通が利きにくくなる部分もあります。以前から御便殿自体が歴史的価値があるのかどうか、建築家の方とも協議をしておりますが、明確な方向性が出ていないという状況です。ご意見いただきましたので、方向性を再度検討させていただきたいと思います。また、計画している新規施設との関連のお話がありましたが、浜田城資料館については目的を限定した施設としておりますので、市全体の資料を展示するものとは別途の位置づけとして考えております。</p> <p>2点目の第一中学校の体育館についてですが、これはレンガ造りの建物です。非常に珍しいということで、登録文化財に指定されておりますが、先ほど申し上げたとおり、指定されることによって困難になる面があるということがあります。浜田高校については屋内練習場があり、10年ほど前だったかと思いますが、基礎を入れて強化されています。第一中学校については床も貼ってあり中々</p>

	<p>そこまでの改修ができないということで現在に至っております。危険があれば使用停止も含めて考える必要があると思っておりますが、レンガの建物ということで、構造的に景観を損ねないよう耐震補強を行うことが非常に難しく、金額も多額になります。ただ、歴史的価値があるということで登録されておりますので、維持については引き続き教育委員会で検討させていただきたいと思っております。</p>
浅浦委員	<p>お話を聞いて金額が高いということは理解しました。どちらにしても計画は立てざるを得ないかと思えますし、展示品等を管理する予算については十分確保する必要があると思えます。</p>
佐々木委員	<p>通番 86、87 に石見小学校と三階小学校がありますが、どちらも「学校統合計画に基づき複合化等を行う」といった記載となっております。石見小学校と三階小学校が分かれてそんなに経たないと思えます。統廃合ばかり進めていくことも考え物だと思えますので、よく考えて進めていただきたいと思います。</p>
教育部長	<p>まず、学校についてはすべて同様の記載としておりますので、石見小学校と三階小学校を複合化するというものではありません。また、石見小学校につきましては、今回の方針に基づいて早期建て替えをすべきだろうと考えております。石見小学校は昭和 38 年前後の建築ですから 50 年以上経っております。同じ時期に建てられた国府小学校については、既に建て替えを行っておりますので、石見小学校も建て替えの方向となっております。三階小学校は平成 4 年の建築ですから、現在そういった方向ではありません。今までは、浜田市の小中学校で 4,000 人ほど生徒がいました。令和 2 年浜田市の出生数は 300 を切りましたので、将来的に 9 学年で 2,700 人程度となり、10 年後には 1,000 人以上減ることが想定されます。そうすると、現在浜田市の大きな小学校は 300 人規模ですので、数から見ると学校数が多くなりますが、やはり浜田市は地域が広くありますので、バランスを考えなくてはなりません。10 年前の文科省の統合方針では、小規模校の解消がテーマでしたが、現在では地域性に配慮するということが言われております。単純な数の理論ではなく、地域との関係を含めた統合方針を出す必要がありますので、審議会の答申等を受けながら検討させていただければと思います。</p>
三浦委員	<p>通番 19 の石見まちづくりセンターについてお伺いします。評価検証を踏まえて 3 年後に複合化となっております。先般長沢サブセンター建設の発表があり、市からの説明もありましたが、小学校区から言えば、三階小学校区にもう一つ欲しいという意見が地元から出ています。そういった意見については、3 年後に石見まちづくりセンターを複合化した時点で検討するというニュアンスでお話があったように思います。そういった意見を踏まえての複合化という方針なのでしょうか。</p>
地域政策部長	<p>市内全てのまちづくりセンターについて、令和 8 年以降複合化という同様の記載としております。先ほども少しご説明しましたが、令和 3 年から令和 5 年にかけてまちづくりセンターの在り方を改めて検証するということを考えており</p>

	<p>ますので、検証結果をもって個別の評価、対応が必要になると思っております。現時点で複合化という方針が最終決定ということではございません。また、小学校区でのまちづくりセンター配置についてお話がありましたが、石見地区にまちづくりセンターを新設するという部分につきましては、小学校区という考えではなく、あくまでも石見地区の人口、面積等を考慮してもう1つ必要だろうという社会教育委員会からのご提言や地元からの要望など、これまでの経過を踏まえて設置するという整理を行っているところでございます。</p>
三浦委員	<p>複合化を行った時点で、三階小学校区の役割を果たすようなセンターを併設するといった考えではなく、今の石見まちづくりセンターの機能を検討していくということでしょうか。</p>
地域政策部長	<p>三階小学校区に新たなまちづくりセンターが必要かどうかということにつきましても、令和5年までの検証の中で、地域の在り方を含めて整理をしたいと思っております。現時点で三階小学校区に設置しないとか、石見まちづくりセンターと統合するといった方針が正式に出ているものではありません。</p>
三浦委員	<p>三階地域の住民からはかなり声が出ていましたので、そういった意見もしっかり聞いていただければと思います。</p> <p>もう一点、長沢サブセンターということに関して、サブではなくまちづくりセンターとして設置してほしいという意見も出ておりました。そういった地元の意見はしっかり聞いていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。</p>
地域政策部長	<p>おっしゃるとおり、サブセンターに関する意見はお聞きしています。サブという名前はついておりますが、他のまちづくりセンターと同様に、地域の活動拠点であり、社会教育、生涯学習を実施する地域の拠点であることに変わりはありませんので、そういった機能はしっかり担保して運営できるようにしたいと思っております。</p>
小松原委員	<p>少し戻りますが御便殿について、私は御便殿の工事を3回行っております。屋根替えや入り口、縁側の工事を行い、9号線端にあったものを今の位置に引っ込める工事も行いました。といたしますのも、匠の技を使った当時の年代の建物は浜田市にはほとんど残っておりません。浜田市の貴重な財産である御便殿を残していくような計画を立てていただきたいと思います。</p>
教育部長	<p>引き続きご支援いただければと思います。ご意見いただきありがとうございます。</p>
3 その他	
光延会長	<p>それでは、その他ということで事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>今後の予定について、事務連絡をさせていただきます。</p> <p>本日の会議を持ちまして、令和3年度の推進委員会が終了となります。大変お世話になりありがとうございました。</p> <p>来年度につきましては、本日決定していただいた計画の進捗管理ということで、ご案内させていただければと思っております。具体的な日程はまたご連絡いたしますが、概ね年2回から3回を目途に実施する予定ですのでよろしくお</p>

	願いたします。以上です。
光延会長	それでは、最後に委員の皆さまから何かございますでしょうか。
豊田副会長	<p>最後にすみませんが、2点ほどご意見させていただきます。</p> <p>今回自治体 DX の推進ということで、デジタル化の流れが進み、新たに項目が増えているかと思いますが、使用する側からみるとそれぞれの課が別々の情報をデジタルで提供しても、中々使いにくいところがあります。可能でしたら浜田市で一元的に管理できるようなプラットフォームの作成等、使用者に使いやすい手段を考えていただきたいと思います。</p> <p>また、久保田委員が言われていた「稼ぐ」ということについても今後力を入れていかれたら良いかと思いました。可能な所で、遊休地を活用したエネルギーの製造、売却によって稼ぐといったところで、いくつかの課題を重ねていきながらより良い地域にできるような取組を考えていただきたいと思います。</p>
光延会長	<p>ありがとうございました。行政改革というと、どちらかというと削ることが目的となりますが、間違いではないと思いますが、委員の方々からお話があったように、新たな外貨を稼ぐという視点も重要であるかと思いました。</p> <p>それでは、最後に砂川副市長からご挨拶をいただきます。</p>
副市長	<p>委員の皆さまには今年度 5 回の会議にご参加いただき、大綱や新たな行革実施計画と再配置実施計画等についてご協議いただきました。今年度中にはこれが正式決定して、来年度から進捗管理をすることとなります。本日お話がありました、給食センターや幼稚園の統合等は、市民の皆さまに直接関わることで、しっかり意見を聞いてご不便にならないよう取り組んでまいりたいと思います。また、稼ぐという視点は重要だと思えます。稼ぐ行政ということがよく言われておまして、浜田市の場合一番稼いでいるのはふるさと寄附であり、今年度は昨年度をすでに超えて 12 億円ほどかと思えます。農産品、水産品等の返礼品にもっと力を入れることや遊休財産を売却するといったところで歳入増に努めてまいりたいと思います。また、施設で売上を上げることは中々難しく、収益が上がる施設は基本的に民間譲渡といったことを行いますが、少しでも節約をしながら稼ぐことも考えていきたいと思えます。</p> <p>色々なご意見いただきましてありがとうございました。来年度も引き続きご指導いただきますようお願いいたします。</p>
光延会長	それでは、以上もちまして浜田市行財政改革推進委員会を終了いたします。長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。

(14 時 45 分閉会、所要時間 1 時間 15 分)